



武石公園

武石公園の大文字  
雪の下からあらわれた「武石」

地域自治センターだより

平成25年/2013  
3.16 | No.36 |



武石ともしび博物館

# アイスキャンドル祭



冬の風物詩としてすっかり定着した「アイスキャンドル祭」が、2月2日、武石ともしび博物館で開催され、親子連れなど約200人が訪れました。

灯りを楽しむ会の皆さんが作った氷灯ろう400個や、武石児童館、学童クラブピーターパンの子どもたちが作った手作りキャンドル50個が並び、博物館や園庭は幻想的な雰囲気になりました。

今年は、オープニングコンサートとして、子どもたちによるオカリナの演奏が行われ、キャンドルのやさしい灯に照らされながら、澄んだ音色が響いていました。

また、会場内に設けられたクイズコーナーや、豚汁の無料サービスなど、来場者は冬の一夜を楽しく過ごしていました。





## 祝 成人式

～ 大人としての第一歩を踏み出す～



誓いの言葉をのべる掛川泰さん



晴天に恵まれた1月13日、武石公民館で成人式が行われ、武石地域では41名が成人を迎えました。

式典では、新成人全員から家族への感謝の言葉や、20歳の抱負などがありました。また、新成人を代表して、掛川泰さん(市之瀬)から「これから明るく希望にあふれる社会にしていくなにも、責任感を強く持ち行動できる新成人とならなければなりません。」

そのために自らがどんなことに対しても積極的に取り組み、どんなに辛い事があっても最後まで諦めない精神が大切だと思います」と誓いの言葉がありました。



## 第20回 ともしびの里芸能祭

～ 魅力あふれる芸能に親しむ～

2月17日、武石公民館で第20回ともしびの里芸能祭が開催されました。

武石地域で活動している団体やサークル、小、中学生など18団体が出演し、息のあった踊りや演奏、歌声など、日ごろの練習の成果を披露しました。





【平成24年度】

第9回

1月23日開催

第10回

2月20日開催

●専門部会で活発に協議

地域づくりの調査研究を進めるため、第7回協議会から専門部会を設置し、地域課題の解決に向けて活発に協議が進められています。これまでの概要は次のとおりです。

■武石地域全域公園化構想の今後の取組について

武石地域の特色ある景観整備を進めていくには、公園化構想の定義づけをしつかりとし、自

治会、地域住民に周知していきたい。まずは武石公園を中心に取り組みたい。その内容や方法について考えていきたい。

■活発な地域づくり～おらほの武石づくり～

武石地域の人口減少が大きな課題である。空き家の有効活用や若い人が住みたいと思う地域、高齢者が住みやすい地域にするにはどうしていけば良いかを含めて協議を進めていきたい。

■雲溪荘について

民間譲渡も含め、存続するよう要望したが、肝心の地元利用者が伸びないと厳しい。今後利用促進に向けて具体的な検討を進めていきたい。

わがまち魅力アップ応援事業

たけしスポーツクラブ

元気アップ！ 活力、活気あふれる

『スポーツ王国たけし』の復活を願って…

たけしスポーツクラブでは、24・25年度、二年間の計画でわがまち魅力アップ応援事業の採択を受け、「元気アップ！絆アップ！たけし」2年丸ごとスポーツフェスティバル」と銘打って、いくつかのスポーツイベントを開催しています。今年度は、「たけし運動会」やプロ野球の講師を招いての「たけし少年野球教室」、番所ヶ原スキー場での「ちびっこスキーフエスティバル」、健康づくりに役立つ「軽スポーツ体験の集い」を開催しました。出会いや交流により、地域の絆を深めることで、武石がもっと元気になるよう活動しています。



2月17日開催の「軽スポーツ体験の集い」でストラックアウトに挑戦

武石のいいところ みつけた♪

保育園編 ～ 節分・初午引き ～

2月1日、武石保育園で節分豆まきが行われました。赤鬼、緑鬼が金棒を持って登場すると、園児は怖いながらも豆を握りしめ、必死で鬼に投げつけました。園児たちの攻撃にさすがの鬼も悲鳴を上げて退散していきました。みんなで協力し、鬼を退治した保育園は、今年もみんな元気に平和な日々を送れることでしょう。



また、2月8日には、初午引きが行われ、園児たちは保育園から武石公民館前の道祖神までワラ午を引きました。

園児たちは、道祖神の前で小さな手を合わせ、「今年も元気に、交通事故にあわないで保育園に来られるように見守ってください」と一生懸命お祈りしていました。





日本農業賞

「食の架け橋賞部門」で  
優秀賞受賞

下武石の農業生産法人(株)信州せいしゅん村(小林一郎代表)が、日本農業賞「食の架け橋賞部門」で優秀賞を受賞しました。

日本農業賞(全国農業協同組合中央会、都道府県農協中央会と日本放送協会が主催)は、農業経営や技術の改革と発展に意欲的に取り組んでいる農業者と営農集団を表彰する全国規模の表彰制度で、「食の架け橋賞部門」は生産者と消費者を結ぶ活動に従事してきた、個人や団体に贈られます。受賞理由として、受入れ農家に滞在し農作業や自然体験を行う「ほっとステイ」

【写真】や、地域の中を歩きながら質問に答えていくプログラムで、必ず地域住民に声をかけないとわからない質問になっている「観郷ウォーク」などの取り組みを通して、地域経済の活性化に貢献したことなどが評価されました。小林代表は「この栄えある賞を受賞出来たことは、皆さま方のご指導の賜と、本当にうれしく思っております。この受賞を機に、さらに精進を重ね、より高いところを目指し活動を行っていきます」と受賞の喜びを語ってくれました。



依田窪南部中学校  
みそ作り

2月23日、依田窪南部中学校の生徒と武石生活改善グループ連絡協議会みそ班の皆さんが、武石農産加工所でみその仕込みを行いました。これは、生徒と地域

が一体となった食育活動の一環で、みそ作りをとおして食に対する関心を深めるとともに、地域に思いを寄せられるようになることを目的に、一昨年から始まったもので、給食委員会や生徒会役員の生徒が中心となり32名が参加しました。大きな釜で煮ておいた武石産の大豆26kgを豆つぶし機でつぶした後、塩を加えた麴と混ぜ、ソフトボールくらいの大きさのみそ玉を作り、樽に入れ仕込みます。参加した生徒は「楽しかった。学校給食で食べられるのが楽しみ」と話してくれました。この日仕込んだみそ約100kgは、10月以降、学校給食として全校生徒で味わいます。



武石小学校  
豆腐作り

1月25日、武石小学校2年生と武石生活改善グループ連絡協議会の皆さんが豆腐作りを行いました。

2年生は、小学校に隣接する畑で豆腐の材料となる大豆の栽培から収穫までを、地域の皆さんと一緒にしてきました。

まず作り方の説明を聞いた後、班ごとに分かれ調理を始めます。水に浸した大豆をミキサーですりつぶし、煮てきた汁をこして、豆乳とおからに分けます。できたての豆乳を一口味見。「おいしい!」と、味見のはずがたくさん飲んでしまい、注意されてしまう子もいましたが、豆腐が完成するまで子どもたちは一生懸命に取り組んでいました。できあがった豆腐をいただく時、「お醤油をつけないで、豆腐本来の味を味わってみて」と言われ、できたての真っ白な手作り豆腐をみんなで味わっていました。



みんなであめよう環境化  
サステナブルな未来

上田市はISO14001を導入し環境配慮活動を推進しています。ごみはきちんと分別し、資源化を心がけましょう!